

【別紙】

令和3年度 宮城県ストップ温暖化賞 受賞取組一覧

1 宮城県ストップ温暖化大賞（1件）

（敬称略）

受賞者 「取組タイトル」	概要
<p>株式会社学研スタディエ東北事業本部～あすなる学院～</p> <p>「地元みやぎで学ぶ子ども達応援企画 ～ミライ思考～ 第1弾 気仙沼の海と山と人 小学生SDGs作文コンクール」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○当該団体は、県内のSDGs活動を教材に、教科学習を超えて社会の未来を考える教育を実施している。 ○県内企業のSDGs活動（バイオマス発電及び熱利用）に関する動画を作成し、動画を視聴した生徒が周囲（学校・家庭）とディスカッションを行った上で作成した作文を応募する仕組み。 ○県内250名から応募があり、再生可能エネルギーの一つである「木質バイオマス」利用に対する理解を深めるとともに、地域資源を中心に持続可能な社会形成を考えるきっかけを作った。 ○地球温暖化対策についての若年層へ向けた効果的な普及啓発手段の好例であり、活動の継続を期待するとともに、教育関連分野への波及が望まれる。

2 宮城県ストップ温暖化賞（2件）

受賞者名 「取組タイトル」	概要
<p>株式会社宮城衛生環境公社</p> <p>「宮城県初の再エネ100宣言 RE Action 達成を目指して」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○当該団体は、令和元年に県内企業で初めて事業所における使用電力の再エネ100%を目指すことを宣言し、翌令和2年にRE100を達成した。RE100宣言の目標達成も県内初。 ○太陽光発電施設の設置や県内由来のJ-クレジットを活用し、令和32年（2050年）を目標年とした計画を大幅に前倒しして達成。 ○令和3年にはV2Xのシステムを導入するなど取り組みは継続しており、更なる再エネの使用促進を図る。 ○ゴミ収集という止められないライフラインを維持するため、系統電力によらず環境負荷の少ない自家消費型の再エネ利用システムを構築し、持続可能な企業経営を図っている。 ○企業における脱炭素の手段としてRE100の波及が期待される。
<p>南三陸少年少女自然調査隊</p> <p>「かけがえのない地域の自然環境を守り伝える活動」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○当該団体は、志津川湾がラムサール条約湿地に登録されたことを契機に、令和元年に町内の小・中学生により結成された。 ○町内の海・山・里、文化・歴史を調査・伝える取組を通じ、自然の恵みの保全とワイズユース（有効利用）を目指し活動。現在は小学生4年～中学3年の13名で継続して活動中。 ○活動調査を壁新聞にまとめ、各所での発表やコンクール出展など、町内の豊かな自然について情報を発信している。 ○活動では、志津川湾のラムサール条約登録の要因となった湾の海藻・藻場の多様性を紹介しており、近年注目されているブルーカーボンの重要性や、併せてカーボンニュートラルに対する意識醸成が促進されることが期待される。